

No.49

関係機関と連携した「安全・安心マップ」の作成

- 管内 十勝管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 地域の活動及び関係機関との連携
- 児童の視点による危険箇所の点検
- 「安全・安心マップ」配付時における安全教室の実施

取組の実際

ねらい

- 地域や警察署との連携による「安全・安心マップ」の作成をとおして、児童が身の回りの危険箇所に気付くとともに、「安全・安心マップ」を用いた学習を実施することにより、交通安全に対する意識の向上を図る。

内容

1 「安全・安心マップ」の作成

○ 事前の情報収集

- ・ 総合的な学習の時間や特別活動において、地域の青少年健全育成推進会と連携し、小学校高学年の児童から通学路や市街地等の危険だと感じる箇所の聞き取りを行い、まとめた。

○ 「安全・安心マップ」の編集

- ・ 教師の日常的な通学路の点検を踏まえ、警察署等と協力し、危険箇所を確認した上で、約50か所を「安全・安心マップ」に記載した。

＜「安全・安心マップ」作成のポイント＞

- 交通安全や交通事故の未然防止の観点に立った通学路等の安全点検の実施
- 日常に潜む危険を予測し、安全に行動できる態度の育成
- 地域の安全に貢献する資質や能力の育成



「安全・安心マップ」を確認する児童

2 「安全・安心マップ」の活用

○ 交通安全教室の実施

- ・ 児童は、交通規則の遵守はもとより、危険箇所を基にした正しい歩行や自転車の安全な利用等について理解を深めた。

○ 保護者・地域への啓発

- ・ 取組を広報等で紹介することにより、「安全・安心マップ」が地域全体の交通安全意識の向上につながる情報源となった。



交通安全教室の様子

成果と課題

- 「安全・安心マップ」の作成及び活用をとおして、児童が交通安全に対して自分の行動を振り返り、理解を深める交通安全指導を実践することができた。
- 「安全・安心マップ」を定期的に更新し、保護者や地域と連携した交通安全指導を実施するとともに、継続した交通安全対策を講じていく必要がある。